

## 対応状況報告書

大 学 名：高知大学

評価実施年度：令和3年度

報告年度：令和4年度

対象となる基準	基準5-3
改善を要する点	○総合人間自然科学研究科医学専攻において、実入学者数が入学定員を大幅に下回っている。
対応状況	<p>・総合人間自然科学研究科医学専攻：入学定員充足率の5年平均（平成30～令和4年度）は72%と改善されている。</p> <p>上記の改善を要する点の指摘に対して、令和3年度中に以下の対応を行い、令和4年度入学生は、募集定員30名のところ24名（単年度充足率80%・昨年度比較4名増となっており、<u>直近5年間の平均が66%（平成29～令和3年度）から72%（平成30～令和4年度）に向上した。【資料1】</u></p> <p>&lt;令和3年度の取組とその結果（令和4年度入学生増の要因）&gt;  <b>【資料2】</b></p> <p>1. 自大学医師および、修士課程（医科学専攻・看護学専攻）からの志願者増加に向けた取組</p> <p>医学系専攻運営委員会において、本課題について共有するとともに、自大学における志願者募集を強化した。<b>【資料3】</b></p> <p>自大学の医師に対しては、医学専攻長から、各講座へ志願者の掘り起こしを組織的に展開する積極的なニーズ調査を行った。また、修士課程においても、更なる研究成果の深化をはかるべく、指導教員から学生との面談等を通じ進学を勧める等、志願者増加に向けた取組を強化した。</p> <p>その結果、自大学医師の入学者は、令和3年度に比べ2名の増加、修士課程からの入学者（進学）は、令和3年度に比べ2名増加（うち看護学専攻から医学専攻への進学1名）となる等、取組による成果が表れている。</p> <p>2. 外国人留学生・国内遠隔地からの志願者増加に向けた取組</p> <p>私費外国人留学生の積極的な受入とともに、医学専攻に JICA「長</p>

期研修員受入プログラム」の受入を行った結果、JICA 経由で留学生の確保が可能となり、今後も継続的な受入が期待される場所である。なお、外国人留学生の受入にあたり、大学院の授業実施方法の見直しを行い、授業のオンライン化、英語化等を定めた授業実施方針に関する申し合わせを新たに策定し、外国人の入学動機向上に加え、外国人の満足度向上を目指した制度改革を行っている。このことは、国内遠隔地在住の進学志願者のニーズの掘り起こしにも功を奏し、令和4年度入学生のうち国内遠隔地在住者は4人となっている。【資料4】

#### 【参考】

<将来の志願者増にむけた取組>

医学専攻の入学生は、自大学の医師が最も多く、その他、修士課程からの進学者、外国人、他大学等からの進学者で構成され、入学者数は直近過去5年間平均で21.6人である。そのため、自大学医師の志願者掘り起こしをこれまで同様継続しつつ、博士課程の基礎となる修士課程医科学専攻の学生（医師以外の医療職種を主なターゲット）を増加させることにより将来の博士課程進学者増を目指した以下の取組を行っている。

（1）令和3年度に放射線技師、臨床工学技士、臨床検査技師、リハビリの療法士などの医療職員を主な対象とするヘルスケアイノベーションコースを医科学専攻に設置し受け皿を整備した。医療職員の受け皿を準備することによって、コース開設初年度の令和3年度に9名、令和4年度に9名の入学者があり今後、博士課程への進学者増を見込んでいる。

（2）医科学専攻公衆衛生学コースを母体とし、医師・医療職員・事務職員等を対象とする「病院経営プログラム（履修証明プログラム）」を平成29年度から行っており、毎年度定員15名を超える受入を行っている。この修了生から医学専攻若しくは医科学専攻への入学を期待し、プログラムの深化を図っている。令和2年度修了生から医学専攻へ1名、医科学専攻へ1名が令和3年度に入学している。この「病院経営プログラム」は「文部科学省職業実践力育成プログラム（BP）」及び「厚生労働省教育訓練給付制度」に認定される等、学費が入学動機の障壁になっている社会人のプログラム受講者の増加を図り、博士課程への進学の動機づけになる取組も並行して行っている。

	<p>(3) その他の全学的な取組として、令和4年度から、博士課程入学者の入学料免除、「卓越した学業等成績優秀者」授業料免除等の経済的支援を拡充することとしている。【資料5】</p> <p>【根拠資料・データ】</p> <p>○過去5年間の定員充足率比較表【資料1】</p> <p>○過去3年間の入学者の内訳表【資料2】</p> <p>○令和3年度第6回医学系専攻運営委員会議事要旨【資料3】</p> <p>○高知大学大学院医科学専攻（修士課程）及び医学専攻（博士課程）における授業実施方針に関する申し合わせ【資料4】</p> <p>○令和4年度第1回高知大学総合人間自然科学研究科委員会議事要録及び第2回高知大学総合人間自然科学研究科委員会議事要録【資料5】</p>
--	--

(注)

1. 機構で受けた大学機関別認証評価において、「改善を要する点」として指摘された事項の対応状況について記入してください。
2. 「改善を要する点」には、評価結果報告書の「Ⅱ 基準ごとの評価」の【改善を要する点】に記載された内容をそのまま転記してください。
3. 「対応状況」には、「改善を要する点」として指摘された事項に関して改善された状況の具体的な内容及びその改善を実現した取組について、根拠資料・データ等とともに「対応状況」欄に記入してください。
4. 根拠資料・データ等は、その名称を記載のうえ、別添として添付してください。評価結果の追記公表の際に併せて公表しますので、資料番号については、既存資料と重複しないよう、既存資料の資料番号以降の連番としてください。
5. 評価を受けた年度の翌年度を一年度目として起算した場合の三年度目の6月30日までに改善していると判断していない事項については、対応状況欄にその旨のみを記載してください。